とよなか未来トーク～行政の仕事体験と市職員との交流会～について（報告）

令和５年（2023 年）８月１４日実施
社会教育課　青少年交流文化館いぶき

令和５年（2023 年）８月１４日（月）、豊中市は、昨年１１月に「国際子ども平和賞」を受賞された豊中市出身の川﨑レナさんが企画した「とよなか未来トーク～行政の仕事体験と市職員との交流会～」を開催しました。市内の中学生に行政の仕事に対する興味関心を持ってもらうことを目的としたもので、市役所の各職場での仕事体験と、市職員との交流や意見交換を行いました。市内の中学生１５人が参加しました。

午前中は、まず、川﨑さんからの趣旨説明ののち、生徒の希望などをもとに事前に決定していた、各参加者の受入れ課の職員との顔合わせを行い、そのまま各職場での仕事体験に向かいました。生徒は、昼食をそれぞれの職場の職員とともにとってもらうなど職員とより交流が図れるようにしました。

午後は、生徒たちと各職場の職員がグループに分かれて、生徒も職員も対等な立場、同じ目線でコミュニケーションをとりながら行う交流会を行いました。川﨑さんによるファシリテーションにより、今回仕事体験をしてみての感想や気づき、初めて知ったこと・わかったことのほか、生徒と職員間でお互いに質問してみたいこと、豊中に暮らす未来の自分自身をどう描くか、などのテーマに基づき、話し合いました。

最初は緊張気味だった生徒たちの様子も徐々にほぐれ、生徒からは職員に向けて「いまの仕事のやりがいは」「仕事をするうえで心がけていることは」などの質問が出たほか、生徒は自分たちの未来像について、「全ての人が自分の生きたいように生きられる未来」といったスケールの大きなもののほか、「人も動物も快適に暮らしている未来」といった優しさがうかがえるもの、「豊中出身であることを誇れるようになりたい」といった郷土愛にあふれるものなど、十人十色の様々な未来像が出されました。

一方で、生徒たちは、体験を通じ行政の仕事の多様さについて知るとともに、実際の仕事に触れ、課題と向き合ううえでの難しさや、乗り越えて得られる達成感などを彼らなりに感じ取り、理解したようです。それを踏まえ今後の行政に期待することなども語られました。

また職員の側からも、参加生徒からの感想や意見から、中学生の新鮮な視点から指摘を得られた、自らの職場の課題について再発見したなどという話が多く出たほか、体験の中で参加生徒から具体的な事業の提案を受けた職場では、実現してみたいという声も出ました。

ファシリテーターを務めていただいた川﨑さんからは、「この事業の過程を通じて生徒も職員もともに、一方的でなく互いにベネフィット(便益)が得られればと考えていた。一部見学させてもらった職場体験の様子や、交流会でのフリーの意見交換や発表を聞いて、生徒のみなさんは行政の仕事への理解が得られ、職員のみなさんは新たな気づきや学びが得られたのではないかと思う。今回参加してくれた生徒のみなさんにも、受け入れてくれた職員のみなさんにも拍手を送りたい」と講評をいただきました。

＜交流会での意見集約・模造紙から＞

〇A グループ（魅力創造分野）

生徒

・豊中市がやっていることについて SNS を通じてより魅力的に伝えるのはとても難しかった。
・事前に思っていたのと違った。現実は甘くないことが分かった。
・市役所はいろいろな課が支えあいながら仕事をしていた。
・なかなかできない貴重な体験ができて楽しかった。
・大人がどのように仕事をしているのか知ることができた。
・市の仕事や市について知ってもらうためにイベントや宣伝をしてほしい。
・将来は、今より成長して、地域に貢献していきたい。

職員

・職員にはないアイデアをもらえた。
・職員になりたての頃の、新鮮な気持ちがよみがえった。
・市の魅力発信がうまく市民に伝わっていないのかもしれない。
・市の魅力として、学校や教育の取組みを発信したい。
・この日の体験の中でつくってもらった事業案を検討して実現してみたい。

〇B グループ（人権・医療分野）

生徒

・見えているところだけで仕事が支えているわけではないことが分かった。
・常に市民のことを考えていることがすごいと思った。
・医師も看護師も常に患者のことを第一に考えている。
・仕事が忙しすぎて、看護師は休憩できていないのではないかと思った。
・自分たちの生活を支えてくれている職員の方々の仕事を知ったり体験ができてよかった。
・自分たちが知らないような仕事が実はたくさんあるということに気づいた。
・安心して生活できる環境の大切さや、安全をつくる仕事の大切さを知った。
・同性のカップルの結婚を認め、いまの時代に合わせて変えていってほしい。
・動物をもっと大事にしてほしい。
・行政にはどのような仕事があるのか、どのようなことが社会の役に立てるのか、アピールしてほしい。
・「全ての人が自分の生きたいように生きられる未来、希望が持てる未来」
・「野良猫ゼロの町で人も動物も快適に暮らしている未来」
・「地域や市内の交流が広がりあいさつが自然に行われ、市の職員と自分が協力し合えるようになっている未来」

職員

・ICT 機器の導入と扱える人材の確保・育成が課題。
・病院は閉鎖的な空間ともいえるので、学生のうちから見て、感じて、知ってもらうことが大切と思った。
・豊中市が安心して暮らせる魅力あるまちにするには新しい発想が必要。
・夢や希望がある職場にしないといけないと感じました。
・仕事や趣味など様々な人とのつながりを大事にして、豊中と関わり続けたい。
・市はどんな仕事にもつながっていると思うので、自分が就いた職やできることで、市の役に立てたらと思う。また直接役に立てなくても発信することで、動いた人の心が他の人に影響を与えてくれると思う。

○C グループ（子育て・教育分野）

生徒

・職場や建物全体で、細かな点から高齢者や小さい子どもへの配慮がされていると思った。
・子育て支援のための様々な制度やその説明会の設定など、市の施策の力の入れ具合がうかがえた。
・子育ての施設に来る子どもの発想力や体力のすごさを知った。何かをつくるのがとてもうまいし、食事の前後も動きまくる。
・図書館では、レファレンスのほか貸出図書の返却確認といった基本の業務のほか、こどもたちへの読み聞かせや映画の上映など多くの人に図書館を利用してもらえるような工夫がされていた。
・豊中市は、何事にもすごくサポートがあると思う。だから自分は今、やりたいことに取り組めているのだと思った。
・市の建物のすべてを人にやさしいものにしてほしい。
・中学生世代の人たちともっとコミュニケーションをとってほしい。

○D グループ（都市経営・都市計画・消防・市議会分野）

生徒

・職員は、アニメやドラマで表現されるような堅苦しいイメージとは全然違い、明るい雰囲気だったので驚いた。
・写真を撮ったり話すことはすぐにできるが、思ったことや伝えたいことを文字に起こすことは難しいと思った。
・紙媒体の広報誌しか見ていなかったが、ホームページのほかツイッターやフェイスブックにも取り組んでいることを知った。ユーチューブショートやティックトックなどのショートの動画を出すといいと思った。
・一口に都市計画といっても、様々な種類の仕事があることを知った。

・自転車の乗り方の交通ルールをもっと知ってもらいたいと思った。
・職員の方の話を聞いて、将来の仕事にはいろんな選択肢があると思った。
・豊中市の収支の詳しい金額を知り、細かいところでも発見があった。
・議場に入ってみて、会議の様子を録画するカメラなどのほか、車いすを使用する議員のために演壇の高さを調整する装置の存在などを初めて知った。
・消防車に乗ったり実際にかかってきた電話を聞かせてもらったりして、ふだん経験できないことをたくさんさせてもらった。テレビで見るよりもカッコよかった。
・「豊中にいてよかった。豊中にいるからこそできたことを大切にしたい。豊中でしてきたことを次の世代に伝えられたらいい」
・「豊中出身であることを誇れるようになりたい」
・「地域や市内の交流が広がりあいさつが自然に行われ、市の職員と自分が協力し合えるようになっている未来」

職員

・生徒会活動の内容について教えてもらったが、SDGs や多様性について高い関心を持っていることに驚いた。広報にも努めたい。
・みんなが安心して暮らせるまちづくりをめざしたい。
・指令センターの業務を知ってもらえる機会は少ないので、いい機会になりました。
・生徒のみなさんはみんな目的意識を高く持って参加してくれました。